



緑の募金事業候補応募書

令和4年7月20日

公益社団法人 国土緑化推進機構

理事長 濱田 純一 殿

応募者の名称等

〒 101-0062

住 所 東京都千代田区神田駿河台 2 - 4 - 4
明治書房ビル 2 B

法人・団体 特定非営利活動法人
の名称 アジアの誇り・プレアビヒア日本協会

代表者氏名 理事長 森田徳忠

TEL 03(5259)5070

下記の活動を行いたく、「緑の募金」の「SDGs貢献使途限定募金」による支援を希望しますので、事業候補に応募いたします。

記

1. テーマ（募集規則に定められたテーマのうち特に該当するもの1つを記載）

(3) 生物多様性の保全と回復への貢献（SDGs目標14、15貢献）

2. 事業名（簡潔に記載。20字以内）

世界文化遺産プレアビヒア寺院地域の森創り

3. 事業目的（この事業を行うことで解決したい課題等を具体的かつ簡潔に記載。60字以内）

内戦や2013年まで続いたタイとの国境紛争で周辺森林が荒廃し、その回復と環境保護が世界遺産保全と観光を担う当地の最大課題

4. 事業内容（募金者の作業参加を含め、何をどれだけ実施するのか等、簡潔に記載。

複数年の事業の場合、全体計画の位置づけも明示し、別途全体計画のわかる資料を添付）

事業区域は、眼下に大森林が広がる世界文化遺産“天空のプレアビヒア寺院”の麓に広がり、世界遺産を保護保全し将来の観光拠点となる地域で、荒廃した森の植樹を通じて地域創造と環境保全を目指す日本のボランティア活動が行われています。現在、住民とボランティアとで共同し地域のシンボルとしての「美しい森創り」が立案され、花畑公園、果樹公園、森林公園を通じて、過去の2万本の植樹に加え、今後5年をかけて3万本の植樹が計画されています。本事業は、その一環として、日本からのボランティア参加も含め、次の3,000本の植樹と関連活動を実施します。①「美しい森」植樹チーム（現地住民代表、現地生徒代表、日本ボランティア含む）支援、②カンボジア全国植樹祭（例年7～8月）に合わせた地域植樹祭の開催と記念植樹1,000本実施（住民、学生、行政代表の参加）③雨季（5月～10月）の2,000本植樹活動実施、④通年の養生管理実施（地元住民による隔月除草、乾季給水活動、毎月の写真撮影と成長記録作成。学校、家庭への記録配布）、⑤乾季の住民への維持管理及び環境研修会開催（環境管理、植林技術）。本年度は今後5カ年計画の初年度となる。

5. 事業場所（位置図を別途添付）

（都道府県・市町村・地番）
カンボジア王国・プレアビヒア州、エコビ
レッジ地区エコパーク
（所有者）カンボジア政府

全体面積	30	ヘクタール
実作業面積	4	ヘクタール

6. 現地の状況（別途説明付きの写真、地図・図面等を添付。必要に応じて参考資料を添付）

当地区はカンボジア政府が2008年のプレアビヒア寺院世界文化遺産登録に伴い遺跡周辺地域約440km²の環境保護と観光資源保全をユネスコに要請された地区内の4,500haの開拓区域である。開拓は寺院近傍に無秩序に定着した人々や国内から定住を希望した人々等により2009年に政府の支援で開始され、2012年末には小中学校生徒数550人、先生10名を含む2,512世帯7,172人の地域となった。しかし、当地の属するプレアビヒア州は内戦時のボルボト派最後の拠点であったこともあり経済発展が進まず、またプレアビヒア寺院の帰属も含むタイとの国境紛争は2013年11月の国際司法裁判所の最終判断まで継続し、カンボジア最貧困地域を抜け出せずにおり、2020年時点では世帯数1,183、人口4,100人へと半減し地域の維持さえ危ぶまれる状況で再生が急務である。

タイとの武力衝突は日本も含む各国ODA機関の支援を控えさせ、自然環境の回復保全は停滞し当協会のボランティア的な支援のみが地域発展の拠り所となり、長年にわたる住民と共同した「緑の募金公募事業」は当地再生の柱に定着し学校林や公共林として住民や子供達の環境意識の源となってきた。世界文化遺産の保全保護及び観光開発の基盤創造には荒廃森林の回復及び生物多様性の保全がカギとなり住民と共同する森づくりが地域づくり、人づくりを実現するものである。

7. 事業実施希望期間

令和5年1月 ～ 令和5年12月

8. 事業実施スケジュール（特に、募金者の現地での作業参加の機会を明記）

時期	内容
R5年1月	「美しい森」植樹チーム会議（住民代表10名、学校3名）開催。植樹祭計画作成（開催日、植樹計画、PR計画、植樹区域整地・下草刈り実施）。
R5年3月	植樹祭開催（日本からの参加者、生徒30名、住民30名参加、行政代表、メディア招聘）及び記念植樹（1000本）実施。
R5年5月	第二期（5月1000本）植樹準備（苗木購入、植樹整地、下草刈り）と実施
R5年5月-8月	地域住民による養生活動（給水）、住民子供達による記録作成。
R5年9月	地域住民による養生活動（給水）、住民子供達による記録作成。維持管理研修会開催（100名規模）
R5年10月	地域住民による養生活動（給水）、住民子供達による記録作成。
R5年11月	地域住民による養生活動（下草刈、給水）、住民子供達による記録作成。第三期（11月1000本）植樹実施（苗木購入、植樹整地、下草刈）
R5年12月	地域住民による養生活動（下草刈、給水）、住民子供達による記録作成。

9. 事業完了後の取組成果の展開予定

(事業完了後の維持管理(主体、内容、期間等)や成果を踏まえた新たな展開について記載。
必要に応じて参考資料を添付)

弊協会はカンボジア政府外務省とMOUを結びNGO登録・組織構築し活動を実施しており維持管理を支援予定。また、現地は2020年度に日本政府外務省のNGO連携事業により農業用灌漑用水整備事業を実施し、給水活動では連携も予定。また、同じく2020年度にはトヨタ自動車の環境活動助成プログラムの適用も受け地域の環境活動リーダーの育成と植林を含む環境教育人材育成活動を実施している。これらを基に、現在、管理主体として①現地水管理組合(現地住民)を整備、「美しい森」住民チーム(現地住民主体)の整備が行われ、今後5か年を目標に維持管理活動として②樹木養生管理、除草管理、公園整備計画推進を進めており、当事業完了後の維持管理も引き継ぐ計画である。さらに、将来は③事業の新たな担い手創出、参画者の拡大に向け、毎年の学生(小中学生)啓発の継続、④運転資金の創出として、水管理組合の水利費による環境創造活動費の適用。さらに整備された花卉・果樹公園の販売収益の一部を維持管理費に適用(美しい森植樹チームとの協議)を計画。そして、⑤取組成果の展開予定として、エコビレッジ4,500haの開発計画と連携して、エコパーク区域(30ha)以外の公共用地(2か所60ha)区域への展開も計画し、将来のエコビレッジ観光事業形成プログラムに展開し諸外国からの観光客受け入れの柱に育成。

10. 資金計画書

区分		予算額 (千円)	内訳
収入 の 部	緑の募金交付金	1,500	
	自己資金	400	会員寄付など
	その他助成金	700	
	合計	2,600	
支 出 の 部	行動費	120	植樹参加人員輸送費、下草刈り・苗床堀作業費
	環境整備費	130	下草刈り・苗床堀作業費、植樹看板設置費、植樹祭開催経費
	資材費	670	苗木3,000本購入、堆肥購入、草刈機借用費
	資材等運搬費	390	苗木・肥料運搬費
	指導者経費	80	研修会講師2名謝金、宿泊交通費
	事務費	110	現地配布パンフレットデザイン費、製作費
	交付金計	1,500	
	自己資金等計	1,100	
合計	2,600		

(注1) 自己資金等には他団体からのその他助成金を含めてください。

(注2) 募集規則の「交付対象経費」一覧で適切な科目区分をご確認ください。

(注3) 交付金での支援決定の前には、上記一覧の細分毎の額を提出いただきます。

11. 応募者の概要

法人・団体の設立年月日	平成21（2009）年4月16日
連絡先 電話番号	03-5259-5070
F A X 番号	03-5259-5073
E - m a i l	contact@preahvihear.org
ホームページ	www.preahvihear.org
会員数	正会員30名、賛助会員48名、団体賛助会員3団体
活動目的	カンボジア王国世界遺産プレアビヒア寺院とその周辺の環境保全と地域住民の生活支援
主な活動内容	パイロットファーム構築、地域住民の農業・教育・衛生等生活支援及び地域開発援助
主な活動地域	カンボジア王国プレアビヒア州特別行政区内エコ村地域
主な森林整備及び緑化推進活動の実績（具体的な数値を記載。「緑の募金事業」によるものは明記。必要に応じて参考資料を添付）	<p>緑の募金事業：</p> <p>2011年7月～2012年6月（2.4千本1,100千円）、 2012年7月～2013年6月（3千本1,700千円）、 2013年7月～2014年6月（2千本2,329千円）、 2014年7月～2015年6月（2.25千本1,980千円）、 2015年7月～2016年6月（1千本950千円）、 2016年7月～2017年6月（2.1千本900千円）、 2017年7月～2018年6月（2.6千本940千円）、 2018年7月～2019年6月（2千本1,090千円）</p> <p>トヨタ環境活動助成事業： 2020年1月～2021年3月（3千本3,259千円）</p> <p>イオン環境活動助成事業： 2021年4月～2022年3月（2.5千本960千円）</p>

実施事業のSDGs（持続可能な開発目標）への貢献について （整理表）

この整理表は、予定される事業のSDGs（持続可能な開発目標）への貢献について確認するものです。

1. SDGsの17の目標のうち、予定事業が、その達成に貢献する目標にチェック「✓」をしてください。（複数チェック可）
2. チェックのある目標について、その達成に貢献する具体的な活動を記入してください。
3. 申請に当たってのテーマ以外も含めて記入ください。

SDGsの目標		チェック	貢献する具体的な活動を記入
1	貧困をなくすこと	<input type="checkbox"/>	
2	飢餓をなくすこと	<input type="checkbox"/>	
3	健康であること	<input type="checkbox"/>	
4	質の高い教育	<input type="checkbox"/>	
5	ジェンダーの平等	<input checked="" type="checkbox"/>	地域の小中学生の植樹参加には男女50名以上の参加を目指し、女学生の参加を半数以上とする。
6	清潔な水と衛生	<input type="checkbox"/>	
7	再生可能エネルギー	<input type="checkbox"/>	
8	適切な良い仕事と経済成長	<input type="checkbox"/>	
9	新しい技術とインフラ	<input type="checkbox"/>	
10	不平等を減らすこと	<input type="checkbox"/>	
11	持続可能なまちと地域社会	<input checked="" type="checkbox"/>	植樹活動と維持管理活動をとおり、地域環境の保持と将来の故郷づくりを実践し持続可能な地域づくりを体験。活動参加者数をのべ100名以上を目指す。
12	責任を持って生産し、消費すること	<input type="checkbox"/>	
13	気候変動への対策	<input checked="" type="checkbox"/>	植樹参加者に3,000本の植樹を通じて環境保護意識を獲得するとともに、CO2削減も意識し、気候変動対策に取り組むことを実感してもらう。
14	海のいのちを守ること	<input type="checkbox"/>	
15	陸のいのちを守ること	<input checked="" type="checkbox"/>	植樹活動と乾季の維持管理活動による植生改善、苗木の枯死防止を通じて、植物の生育のみならず、いのち大切さを行動をもって身に着ける
16	平和で公正な社会	<input type="checkbox"/>	
17	目標のために協力すること	<input checked="" type="checkbox"/>	地域住民、子供達も含め、日本のボランティアとも協力して植樹を通じた環境活動を実施する事により、地域の未来を描けることを実感してもらう。

（注）SDGs（持続可能な開発目標）は、貧困や格差、気候変動、海・陸の豊かさなどのさまざまな問題を抜本的に解決することを目指す、世界共通の17の目標です。

詳しくは、国連広報センターのサイトや国土緑化推進機構のサイトのハンドブック等をご参照ください。

http://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

<http://www.green.or.jp/about-us/sdgs/>